

第8期第2回 豊栄地区公民館運営審議会 会議録

日時： 令和3年12月6日（月） 午後2時～午後4時
会場： 豊栄地区公民館 大講堂
参加者： 豊栄地区公民館運営審議会委員 東委員、石川委員、梅津委員、神田委員、
日下委員（議長）、倉島委員、栗原委員、
土田委員（副議長）、マルシェフ委員
豊栄地区公民館 寺崎（館長）、立川（主任）、高村、佐藤、小池
北地区公民館 岩本（館長）、風間
傍聴人： 0名

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議 事

（1）令和3年度事業経過報告について

（事務局）令和3年度 豊栄地区公民館事業経過報告を説明

（日下議長）ありがとうございました。ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問などはございませんでしょうか。

（栗原委員）今の説明の中で経費の話が出たと思うのですが、この資料を見ますと講座を受講する場合、有料の部分よりも、ほとんどが無料なのですが、講師を呼んだ場合に謝礼がいると思いますが、それを全部公民館の方で負担しているのでしょうか。

（立川主任）公民館の事業は、必要最低限の材料費とかの実費を徴収するような形が多く、無料で講座を実施するケースが多いです。講師の謝礼についても新潟市の謝礼基準に基づいて、大学教授であれば何ランクという形で謝礼をお支払いして、事業を実施しているのがほとんどです。

（日下議長）事務局ありがとうございました。他にご意見・ご質問ございませんか。

（梅津委員）今回の事業報告は10月末現在ということなのですが、ちょっと興味があったのでお尋ねいたします。子どもの自己肯定感を高めるこの事業ですが、既に1回目も2回目も11月に終わっていると思いますが、どのくらいの方が参加なさったのでしょうか。

（立川主任）今手持ちに資料がありませんので、調べてきて後程報告させていただきます。

(日下議長)今の件につきましては、後程報告いただくということでお願いします。他にご意見・ご質問がある方いらっしゃいませんか。

(栗原委員)先程の経費の件とイコールではないのですが、この前行政のトップである中原市長が「さわやかトーク」のためにこの会場に来られて、終わって帰る際に、たまたま隣の部屋で絵手紙の教室か何かをやっていました。中原市長も絵手紙に非常に興味があったようで、ちょっと立ち止まって見ていかれました。行政のトップが見ていかれたということは、私はこの豊栄地区公民館は非常に良いことをやっているなど、中原市長は感じていったのではないかと思いますので、補助金を減らされるより何かできることをやった方が良いかなと思いました。

(日下議長)この件について、事務局何か補足などありますか。

(立川主任)展示事業や文化協会の事業、あと公民館の方でお金をかけないで発表する場を設けるなど、ほとんどお金がかからない事業もごございます。非常に豊栄地区の皆様は文化に熱心な方が多く、発表の場をものすごく求めている方が多いのが特徴です。ですからこの大講堂を出たところの廊下の展示ギャラリーであったり、公民館まつりでの展示や文化協会に加盟されている団体が視聴覚室を利用して展示をしたりと、事業費がほとんどかからないものの中にはごございます。そういう点では、豊栄地区公民館は、他の公民館に比べても発表の場を多く設けているように思います。

(日下議長)事務局ありがとうございました。展示に関して私の方から意見を一つ言わせてください。Facebookを拝見させていただきまして、今年度事業に関する広報も、また展示に関する広報も大変詳しく載っているなど、大変感心して見させていただきました。展示の様子もすぐわかるようになっておりましたし、そちらを利用されているサークルさんの説明なども丁寧に書いてあったので、ここに行ってみようかなと興味を惹かれるような内容であったのではないかと思います。先程のコーヒーについての参加者についても、講師の方からSNSを通じての告知もあり、参加者が増えたとお聞きしましたので、様々な媒体を使つての広報というのは大変有効なのではないかと感じたところです。以上です。

(立川主任)ありがとうございました。SNSは非常に有効な手段になるということで、参加者には、募集の際にSNSに載せてよいか確認した上で、載せさせていただきます。子どもが参加する事業についても、載せてよいですかと確認して、ダメと言われた場合には写真は撮らないようにしています。個人情報などに気をつけながら、できるだけ情報を発信していきたいと思っております。

(日下議長) 様々な配慮の上で発信しているということがわかりました。ありがとうございました。何かほかにご意見・ご質問ございませんか。

(立川主任) 先程の梅津委員の質問ですけれども、幼児期家庭教育学級の子どもの自己肯定感を高める講座に対する質問ですけれども、詳しい数字であるか担当が不在でわかりませんでした。11月4日10名、11月11日も10名の参加があったそうです。

(日下議長) 何かほかにご意見・ご質問ございませんでしょうか。

(神田委員) チャレンジキッズ教室の中で、子どもたちがプロのマンガ家から人の顔を描くコツを学ぶという講座が開かれているのですが、大人でもとても興味があることだと思うのですが、今後子どもたちだけではなくて、プロのマンガ家さんから教わる大人の講座を開く考えが今のところあるのかどうかお聞きしたいと思います。

(立川主任) 要望があれば考えていきたいと思います。今回、アクティブシニアで己書という筆ペンの「相田みつを」さんみたいな独特の字を書くような講座を取り入れてみたりしておりますので、そのような要望があれば、担当に確認しながら取り入れていきたいと思います。

(日下議長) 他にどなたか、ご意見・ご質問ありませんでしょうか。

(土田副議長) 先程の己書なのですが、参加募集の制限で、成人で初めて己書を体験する人とおおまかな感じで募集してあるのが、すごく興味を持っている人が、すっと行ける感じで、とてもいいなと思いました。それに対して、ユースセミナーになると20代~30代となっていて、内容が筋トレとか、お金の話になるのですが、それでも20代以降の方でも聞きたくなる人がいたり、興味を持つ人もいらっしゃると思うので、もしでしたらカッコ書きで年齢を伸ばしてもOKですみたいなものがあると、少し入りたくなる人もいないかと思いました。それも出来たらお願いしたいということです。あと募集人数が少ないものがあるので、漏れてしまった人もいないか、気になる講座をできたらちょっと題を変えてもいいので、形を変えてとかやれないでしょうか。

(立川主任) 20代30代とか限定しないで誰でも受入れるのはいいのですが、一応ユースセミナーとなっておりますので、その辺は申込に来た方の年齢が若干飛び出ているとかであればおそらく大丈夫だと思っております。己書については、参加申し込みが多くて、抽選に漏れた人がいるのですが、抽選に漏れた人を対象に講座を開くことについて、先日先生の方も了解して別にもう1回

講座を実施するという話をしておりました。人気がある講座については、今後このような対応ができたらしたいと思っております。

(日下委員) 事務局ありがとうございました。他にご意見・ご質問ございませんでしょうか。

(梅津委員) 家庭の教育力向上を支援する事業なのですが、本当に素晴らしいことを考えてやってくださっているなと思うのですが、折角こんなに良い事業をするのに、もうちょっと人数がいてもよいのではないかなと思いました。ゆりかご学級もそうですし、幼児期家庭教育学級もそうですし、もう少し人数がいてもよいのではないかと思います。ゆりかご学級へ来られている方だったら、家庭教育・学習の必要性について、意識付けを行う機会にしたいというのだけれども、この人たちにとって、意識付けになってきているのかどうかを知りたいなと思いますし、もう少し人数来てもらって、家庭教育について考えて欲しいなと思っているところです。

(立川主任) 今回のゆりかご学級などの講座は、幼児期家庭教育学級もそうなのですが、コロナ禍ということで、人数を絞って、当初20名の募集であったものを12名に縮小してやっているということがございます。コロナが明けたら、募集人員を戻したりしたいのですが、とにかくどうやったら実施できるかを考えた上で、今年は人数を絞って、縮小するような形で実施しております。ゆりかご学級につきましては、家庭教育・学習の必要性についての意識付けまではいかないにしても、参加者でサークル化されたりしておりますので、少なからず意識付けにはなっているのかなと思っております。また、同じ悩みを持つ方々が情報を共有しながら子育てをしていく良い方向になってきているのかなと思っております。

(梅津委員) 募集人員が12名であるのに、9名だったり、8名だったりしているので、12名集まってももらえなかったのかなというところですか。

(立川主任) それは、12名集まってももらえなかったということです。コロナ禍というものもあるかもしれませんが、北区だけではなく他の地域からも来たりしますので、新潟市内全域で募集し、足りなければ情報交換や空き情報などを出したりするのですが、今回は達しなかったということです。

(日下議長) 事務局ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。それでは、運営審議会としましては、コロナ禍での苦労であったり、また経費削減の苦労であったり、色々な場面で工夫されているのが伺えるお話をたくさん聞かせていただいたところではあるのですが、対象を広げるお話であったりとか、講座そのものを対象が違ふところではなどと言った意見が出

ました。また、広報活動をすることによって参加者が広がるのではないかと
いう可能性についても意見がございました。このコロナ禍の中、事業を計画
し運営していくのはとても大変なことと思います。様々な工夫や配慮の上で
されているのだなと説明を聞いていて感じました。今後も感染状況を見なが
ら、今現在取り組んでいるように、すべて中止する方向ではなく、どうやっ
たら事業をどのような形で行えるのかという視点で、今年度残り4ヶ月とな
りましたが、残りの事業も取り組んでいただければと思います。続いて北地
区公民館説明をお願いします。

(事務局) 令和3年度 北地区公民館事業経過報告を説明

(日下議長) 北地区公民館ありがとうございました。只今の説明に対して、委員の皆様
よりご意見・ご質問などはありませんでしょうか。

(梅津委員) 有情のまちの中学生ガイド養成はとても素晴らしい事業だと先回も申しま
したが、この中学生ガイド養成講座は松浜中学校主管とあります。主管とい
うと、ガイドツアーは北地区公民館が主管で仕切ってやっていると思うので
すが、中学生ガイド養成講座の方の松浜中学校が主管しているというのは、
どの程度まで学校がやっているのか、その辺りを教えていただけたらと思
います。それと、キネマ松浜劇場は、結構永い歴史がある事業で、公民館へ行く
とよく宣伝していらっしゃる事業ですが、内容の選定については、企画委員
の方が全部決められているのかどうか。そして、この講座の趣旨なのですが、
皆さんが若返る回顧療法とつなげていくということなのですが、目的に達し
ているのかどうかを教えてください。

(風間主査) まず中学生ガイド養成講座について、以前は北地区公民館のほうで、中学
校と話し合い、春先から秋口までの間に、松浜の市場、神社などオリエンテ
ーリングを含めた9回の養成講座のカリキュラムを組んでいました。ただ、
中学生の部活や、生徒会の活動など中学校本来のスケジュールがあり、学校
の方で日程を組んでもらったほうが、非常に効率的というか、合理的な部分
があることや、公民館側の事業の見直しで他の事業との調整もあったことか
ら、どうやったら中学校側と公民館側とでお互い協力してうまくやってい
けるかの話し合いをし、事業の見直しをさせていただきました。養成講座では、
生徒さんが実際地域の方から歴史のことを教えていただいているのですけど、
その講師方との日程調整とか、実際どう学んでいくのかの養成講座は、学校
の方で主管としてやっていただいて、ガイドツアーの市民への募集のための
区だよりへの掲載や、申し込みの受付を公民館側で行うことや、公民館側で
当日の運営をすることなどは北地区公民館が主管でやっていこうということ
で役割分担をしました。今回が初めて役割分担をして実施しました。
それと、キネマ松浜劇場ですが、こちらも2年位企画委員の方とやっている

事業なのですけど、作品の選定は企画委員の方から企画会議の中で作品の選定をしております。当初の頃は、毎月ミーティングとかもしていたのですが、これも見直しをし、半年分毎の作品を決めて選定しています。ミーティングの回数もなるべく効率よく減らして、企画委員の方の負担をなくすようなミーティングの回数にして選んでおります。回顧療法については、毎回、観に来られた方に一言感想を書いていただいているのですが、書いていただいた内容を見ますと、結構古い映画を上映したりしているので、当時の状況を思い出したとか、色々そういった形のコメントを書いてあったりしていますので、そういった意味では、回顧療法的な良い効果がでてるように感じております。

(日下議長) ありがとうございます。

(梅津委員) キネマ松浜劇場は、もっと歴史があったような気がするのですが、まだ2年位ですか。

(風間主査) そうですね。平成31年3月位からです。その前は、通常の映画の上映会としては、年1回とか2回やっていたのですが、企画委員と一緒にやってきているという意味では、ちょうど2年半前位からになっております。

(梅津委員) わかりました。それから先程の中学校の方が主管するということなのですが、中学生が中学校の中で講師の方を呼んできて、やりたい人たちが集まって教えてもらう、指導してもらう。その段取りをつけていくのは、教員がやっているのか、地域教育コーディネーターがやっているのか教えてください。

(風間主査) 先程役割分担で始めたということでしたけど、当時は北地区公民館が主導でやっていたものですが、ノウハウが学校の方でもあり、地域教育コーディネーターさんが中心となって、生徒会の役員、学校の先生、確か生徒会の担当の先生などとともに話し合いながら生徒のスケジュール調整をします。生徒については、毎年募集をかけて新しい形で今年やりやすい方という形で応募してもらっているということです。あと、教える講師はお一人なのですが、この方は何年も講師をやっておられまして、ガイド養成のためのテキストを若干改定しながら指導を行っていただいております。そういった意味では、日程調整と生徒とのやりとり、学校のスケジュール調整が主な内容になります。あと講師の方とのやり取りを学校にやっていただいているということになっております。

(日下議長) ありがとうございます。他にご意見・ご質問ありませんでしょうか。

(倉島委員) 私、この中学生ガイドに参加させていただきました。天気が悪くてなかなか大変だったのですが、参加人数が多くて2班に分かれて、コースを逆回りで回らせていただいたと思います。3年振りの開催で、以前にも参加して、今回久しぶりに参加したんですけど、続けていくのは大事なんだなということがよくわかりました。間が3年空いたというのは、結構大変なのかなと思って、ブランクが空くとノウハウがわかる方がいなくなってしまって、全く同じにはならないし、良かったところ、悪かったところが、やはり記憶がうすれている部分があるので、すごくいい企画だと思いますので、何とかコロナ禍でも続けていけるやり方を検討していくというのは、とても大事なんだなと感じました。前回、参加した時は、暑くて難儀だったのですが、今回は寒くて難儀で、雨があたってきたり、風が吹いてきたりして、港まで出れなかったと思います。市(いち)を入りたいので、予備日程を組むのは難しいと思うのですが、予備日程を組むということも、考えてみては良いのではないかと思います。どうしても、2と7の市(いち)の日で、なおかつ土日で、季節がいい時期でと考えていると思うのですが、生徒がせっかく一生懸命勉強し、リハーサルも夕方5時、6時までかかってリハーサルをやっていたと聞いていましたので、そこまでやって1回のチャンスしかないのは、予備日程や他に発表する場を設けるということを考えていいのかなと思って見ていました。また、せっかく色々な事業をやっているのに、北地区公民館はFacebookが更新されていないのがとても残念です。今回この資料をいただいて、Facebookを見たのですが、豊栄の方は本当にわかりやすく、先程日下委員がおっしゃったようにわかりやすく、チラシや当日の様子が載っていたのですが、北地区は残念なことに止まっているような感じを受けました。ちょっとお忙しくて難しいのかなというところはわかりますが、SNSは使った方がいいと思いますので、SNSで発信すれば、学校のiPadでもきっとみられると思うので、このガイドとかもiPadで見られるというと、小学生も地域のことを学ぶ時に役立てることができるのではないかなと感じました。それともう1点、豊栄も北地区も様々な講座をやっていて、非常に魅力的なもの多いのですが、それを相互に交流するということは、考えたりするのでしょうか。豊栄でやったものを松浜で、北地区公民館出張版であったりとか、北地区公民館が濁川や南浜で同じものをやるように、豊栄でやった好評の企画を北地区でやるとか、北地区でやっている好評のものを豊栄地区で同じ講師の先生でやりますみたいな相互交流みたいな企画が出来るのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

(風間主査) 中学生ガイドは、倉島委員も参加されていて、よくわかっていらっしゃると思うのですが、どうしても日程については、生徒は学校が第一なので、ボランティア的な形でこのツアーやっていることから、予備日を設けるのは難しい部分がございます。特に先程倉島委員も言われました通り、松浜の定期市が2と7の日なので、生徒さんがどうしてもやれる日となると週末になり

ます。2と7が週末と重なる日がなかなかありません。なぜ10月かという
と、テスト期間を外さなければいけない。部活の新人戦も外さないといけま
せん。どうしても春先から秋口まで9回くらい養成講座をやるのですが、
やる時期が10月になってしまいます。ですからその辺は、ちょっとご理解
いただきたいと思います。あと3年ぶりといいましたが、台風で中止になっ
たときにガイド養成講座の成果を学校の文化祭で発表したようです。そうい
った意味では、おとし、養成講座に参加した生徒さんも折角勉強し、これ
だけ頑張ったということ、他の生徒に見て欲しいということで、そのよう
な企画をしたと思うのですが、色々と地域教育コーディネーターの皆さんも
考えてやられたようです。Facebookの更新については検討させていただき
たいと思います。豊栄の企画を北地区、北地区の企画を豊栄で行うというの
は、基本的に区だよりで募集していますので、全て誰でも申し込みが可能で、地
域で分けているわけではありません。あまり同じ企画を違う地区でやるとい
うのは、予算とか人員、業務量も考えると難しい面があります。色々な企画
をしている各公民館へ出向いていただければということで、ご理解いただ
ければありがたいと思います。

(日下議長) その辺に関して、私からも追加で聞かせてください。同じように企画、運営
されていて、見た方が好きな企画の方に参加申し込みをしていただければと
いうことだったので、住んでいる住民からすると北地区に住んでいる
と、どうしても自分の担当はこっちみたいな意識があるものなのかどうか。
参加している方の住所で、豊栄地区公民館の企画には同じ地区の方が多いと
いうような傾向はあるのでしょうか。

(立川主任) 住所とかを見ると、豊栄の方は豊栄の方が多いですね。ただ、若い人はどこ
へでも行きますので、事業によって変わったりするかもしれません。全部住
所を見たりしていないのですが、豊栄地区に限らず参加されている方も
あると思います。

(日下議長) ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

(マルシェ委員) ジュニアワンダーランドの「こねこねアロマせっけん」や「まつぼっくりフ
ラフト」について、私も別の機会に企画して開催したことがあるんですけど、
子どもたちがとても喜んでいて、すごく人気のイベントでした。なので、
こういう事業も公民館でもできるというのは、すごく良かったのではないかと
思っています。あとこの前の回にも話題にあがったような気がするのですが、
こちらの豊栄地区公民館はWi-Fiの環境や新しい建物ということもあ
って、学生が勉強に来たり、すごくいいなと思っていたのですが、その
あと南浜連絡所でもその話をして、中学生にも開放してくれないかと言
ったら、日を決めて何日か開放していただきました。でもやっぱり子供たち

はW i F iがあった方が来やすいのかなというのと、みんなi P a dも配られていますし、調べ物をしたりするにも、やはりインターネットがあった方が便利のかなと思って、豊栄には通えない子たちにもそういう環境がこれからできたらいいなと思います。

(岩本館長) 今ほどの件ですけど、北地区公民館にはW i F iは入っていない状態ですが、公民館全体の中でも中央公民館を中心として、W i F i環境を整えましょうという話がある中で、北地区公民館の方も工事をする前提で、講座室にW i F iを入れる流れにはなっています。今動いていますが、いつからは、O Kになりますよとは言えませんが、そんな状況で進んでいます。地区公民館には入る動きはあるのですが、先程言われた南浜などの公民館の分館にあたる場所につきましては、次の段階でということでご理解いただきたい。

(日下議長) 北地区公民館ありがとうございました。この審議会の懸案になっていたW i F iについて、公民館全体で整えるという流れになっているのは、今聞かせていただいて、大変うれしく思っております。今話に出ました分館についても、長い目で見させていただいて、是非どの地区に住んでいる人たちにも同じような環境で活躍の場が与えられるといいなと思っております。他に何かご意見・ご質問はございませんでしょうか。

(石川委員) コロナによって、皆さん苦勞されて色々なことをやったのだなとよくわかりました。色々なものを縮小や人数制限、中止にしたりしてきて、ちょっと緩和されて枠を広げた時に、すぐに人がぱっと戻ってくるものと、中々戻らないものもあるのかどうか。もしもあるとしたら何か違いがあるものなのか。もしあったら教えてください。

(立川主任) 非常に難しい問題かと思うのですが、今年度の利用者数は、まだ集計はしていませんが、豊栄の場合は、使用料の収入の状況から見ればだいぶ利用団体は戻ってきている状況と感じています。事業の方については、昨年の10月に作成した利用についてのガイドラインを中心に適用しており、リスクが高い事業については、感染対策をして定員を縮小するなど、そのような状況でやっていますので、オミクロン株なども出てきていますので、どの段階で外せるか、今後どのようになるかわかりません。事業については、感染状況によって、慎重に進めていかななくてはいけないと思っています。

(岩本館長) 北地区公民館の方も定期利用団体などは、コロナ禍で活動を中止にしますとキャンセルするような団体もあったのですが、またここ最近の落ち着いた時点においては、再開しますのでという団体がいくつか出てきております。貸館で利用される団体・サークルの方は、少しずつ戻ってきているのかなという感じでございます。

(日下議長) ありがとうございます。他にありますか。

(マルシェフ委員) 活動内容とは違うことですが、知り合いが色々な公民館を使って、サークルのような活動をしている人がいるのですが、その申し込みの時に当日お借りする前に、一度行って申し込みをして、当日を迎えるという感じで、2回行かなければいけない公民館があると言っていたんですね。そうすると、仕事をしていたりする中で、2回行かないと使えないというのは、ハードルが高いのかなと思って、北地区公民館は、一般の方が申し込むときに、どのように申し込んでいるのでしょうか。

(岩本館長) 公民館の利用は、サークルの団体中心の利用ですので、公民館は個人の利用はできませんし、5人以上の方で集まって、事前に団体登録をしてもらうというのが一つあります。様式等はホームページ上に出ておりますが、申請書等を出し、内容を確認させていただきます。先生主導のお稽古教室などは、公民館の利用はできません。団体登録をしてもらってOKであれば、ID等もできますので、利用申込についてはインターネットでもできますし、紙ベースで来館されて、申請書を記入したりして利用いただいております。1回は事前の登録が必要であろうかと思えます。市民会館等は、会社の説明会など営利事業の利用できる施設になっています。今のご質問がどのことを言っているかによって、色々なケースがあらうか思えます。

(マルシェフ委員) ありがとうございます。ちなみに皆さんでフラダンスを踊っている会の皆さんですので、色々な形があるとわかりました。ありがとうございます。

(日下議長) ありがとうございます。他に何かご意見ありますか。

(東委員) 前回は少し話をさせてもらったのですが、学校との連携といいますか、やはり小さいうちから公民館を利用していると、公民館と連携したことが常に頭に残っていて、今後も利用しようという人が増えていくのではないかと考えています。小学生相手の陶芸とか茶道、中学生対象のまちガイドとか、公民館とこういう関わりが良かったなあという体験が、きっとそのあと仕事に就いても繋がっていくだろうし、リタイヤされたあとも繋がっていくのではないかと考えています。そうすると、小中学生の段階で連携していく必要があるのではないかなと思っていて、先程の松浜中学校の取り組みは非常に良い例だと思うのですが、来年度からCS（コミュニティスクール）も始まるので、もっともっと増やしていく必要があるのではないかなあと思っております。具体的には何かと言うのはないのですが、中学校、小学校と一緒にやっていく事業を増やしていく方向のお考えがあったらお聞かせいただきたいと思えます。

(立川主任) 東委員のお話は最もなお話で、学校との連携も考えていかななくてはいけないという部分で、地域教育コーディネーターの皆さんとの連携やコミュニティスクールが新潟市全体で始まるということで、葛塚地区でもすでにモデル校として活動が始まっていますので、その辺を見ながら対応したいと思っています。例えば講演会にしても、今年、北区が人権の当番にあたっていて、人権に関する講演会を実際にコロナに感染された方に来ていただいて講演会を実施し50名位参加いただきました。非常に良い話ということで運審の委員の皆様にもご案内させていただいたのですが、そのような2年に1回回ってくる人権に関する講演会ですが、そのような講演会を学校と連携して行うというのも可能なのかなと思います。また、他の事業でも連携できるものがあれば、逆に相談や提案していただければやっていけるのではないかと考えております。どのような事業ができるか、すぐに答えは出ないですけど、CSでは、地域で子どもを育てる意味合いもありますので、公民館も協力していきたいと思っています。

(日下議長) ありがとうございます。他に何かご意見はございますか。

(梅津委員) 今、東委員がおっしゃられること私も大賛成なんです。学校は、子どもたちの生き抜く力、昔は生きる力といったのですが、今度は生き抜く力と変わってきていて、じゃあ生き抜く力を育むために何をやるのだろうかと言ったら、やはり大事なものは、色々な体験だと思うのです。それで、やはりこういう風に土曜公民館とか、色々な所で子どもたちを呼び込んで、色々な体験の機会をこれからもいっぱい与えて欲しいなと思っています。それで、まち探検をしながらごみ拾いというのがありましたよね。参加者数が7名でした。参加者数が本来ならもうちょっと多くても良かったと思うのですが、こちらを学校にチラシを配ると思うのですが、学校にチラシを配った後に何をしたかというところで、チラシを配るだけでは子どもたちは、お家へ帰っても保護者に見せてそのままごみ箱に入ってしまうかもしれないし、やはりチラシを配るだけではなくて、一言担任が添えてくれるといいなと思うし、例えば校長会等で校長先生たちにお願ひしてもらおう。今回自治協でやっていた「あったか言葉」の時も、最初はあまり申し込みがなかったけれども、校長会を通して話をさせていただいたら、300近い言葉が集まったということだったので、とにかく生き抜く力をつけるためにじゃあ何をやるのか、何がというところがまだまだ薄い感じがするので、ただチラシを配るだけではなく、その後のところでもうひと踏ん張りしなければいけないじゃないかなと、東委員の話聞きながら思いました。

(日下議長) ありがとうございます。今のふたつの意見に対して、私も補足と言いますか、思ったことは、公民館の方も是非小中学校と何かをしたい。小学校・中学校の方も連携できるのであれば、是非力を借りたい。間違いなくそこは思

っているのだなというのがわかりました。ただ具体的に「何」となると学校ごとに思っている課題も違うでしょうし、公民館より提案するにしても、学校の規模であったり、小中学校によって違うと思います。CSが始まることによって、公民館の方で会議に参加されことも多くなると思いますので、そういったことを重ねることで、お互いに課題が見えてきてできることやお願いしたいことが明確になってくると、おっしゃっていただいた「生き抜く力」をつけるためにそれぞれの得意技を活かしていけるのではないかと。まちづくりガイドを継続するために、色々と改善して行って、役割分担をしているという話もありましたので、色々な小中学校と連携して。最初からうまくいくことはなくても、そういった役割分担をしながら、うまくお互いの力を活かせる協働の形が見つかるといいのかなと思います。

(栗原委員) 反対意見ではないのですが、私は公民館これだけの事業をやっている、これ以上小中学校に働きかけをやったにしても時期的なもの、先程北地区公民館で10月がMAXだよという話があったのですが、なかなか厳しい部分もあるのかなと思うのですよ。絶対地域との連携、学校との連携は必要で、今の子どもでもそれは間違いないです。そこで、各学校単位というか小学校・中学校単位にコミュニティがありますので、コミュニティと連携しながら公民館を抱き込んで、そういうものでいいのかなと私的には思いました。私は葛塚なのですが、葛塚中学校とは、結構いい連携を図っていて、今回モデル校になっていて、色々な事業をやって、学校も乗ってきたし、地域も乗ってどんどん提案して、先に進んで非常にいい連携が図れたと思うのですよ。そこで、我々が葛塚中学校の顔が見える、話ができる。そんなのでいいのかなと思う。公民館は、これ以上はきついかないと思う。確かに連携は必要。色々な投げかけはやって、追って追って、蓋開けたら5人や3人では、難儀しただけ可哀そうかなと。だからできるものとできないものがあるのかなと。この前の人権の講演会は、ものすごくよかったですね。本当にリアルで、あの人が語ってくれたことで、飛沫でしかうつりませんよとはっきり言ってくれたのですね。それからだんだん聞いていくと、ここまでは良くて、これ以上はうまくないということがよくわかって、あれは非常に良かったです。反対意見ではないのですね。ただ公民館は、私はこれ以上の事業なんかできないような気がして、これを色濃くしていけばいいのかなと思います。

(日下議長) 栗原委員貴重なご意見ありがとうございました。それこそ、足していくというよりも、今ある事業の中から連携するといったイメージでいくといいのかなと。例えば、小中学校のPTAは、講演活動なんかは必ず入っているけども、それを独自にしているところは公民館と連携することでといったような、プラスというよりは、お互いの1と1を足して2にするのではなく、お互い0.5ずつの負担で1ができるねというふうになると負担も減りつつ、連携もできる。みたいなイメージを栗原委員もおっしゃってくださったのか

なと思いました。コミ協さんなどの参加によって、実際の運営のところはお願いで、繋ぐ役割は公民館といったような役割分担も有効なのかなと、今お話を聞かせていただいて思いました。ありがとうございます。

(梅津委員) 栗原委員がおっしゃっていることは本当にもっともで、私も地域の方たちもこのような活動をすれば一番いいと思うのですが、これはサタディキッズという事業で、せっかく公民館活動の協力員さん、地域の方がいらっやっやいて、大学生も育成していくというそういう狙いもあるので、これが広まって、コミ協さんと繋がっていったら素晴らしい事業になるのかなというふうに思います。本当に基本は、子どもたちの生き抜く力は、家庭もそうだし、地域もそうだし、学校もそうだし、みんながやはり手を携えてやっていかなくてはだめだというので、公民館がいつも指針というか、投げかけてくださるから私たちが動けるのであって、それだったらもう少しチラシを配るだけではなくて、ということで私は言ったのです。本当に葛塚東、葛塚中のコミュニティ協議会はすごいですね。ということでいつも感心させられておりました。

(東委員) 例えばうちは、今までの学校評議員なんかもそうですし、現段階のCSの委員の方の中にも公民館の方は実はいらっやらない。なので、やはり地域だけではなくて、外部からも見ていただいて、うちの学校の取り組みとして、こういうことをやりたいということに対して、ご意見をいただきましたとか、新しく何かをしていただくというよりも、まず学校を知っていただいた上で、外の目から色々経験が語られた上で、もっとこんな活動をしたらいいのではないかと。これは公民館でやっているから一緒にどうですかみたいな、連携できればいいなと思っているのです。結局は栗原委員がおっしゃっているのと私は同じなのですが、これ以上何かをしろというのではなくて、うまく連携できれば、もっと子どもたちのためになって、それが公民館の活動が活発になることに繋がっていくのではないかとというのが考えであります。

(日下議長) では、運営審議会としての意見をまとめます。ずいぶん白熱しましたけども、北地区公民館に関しては、継続のために主に中学生ガイドとキネマに関してでしたけど、継続のために色々な改善を重ねて今の形になっているというお話から、6月にあった研修会の時に聞いた話ですと、利用者はお客様じゃないよ。協働するパートナーなのですよという言葉が頭に残っていたのですが、まさに改善して、今の形は協働するパートナーなのかなと感じました。役割分担をして、より良い活動のためにお互いが運営しているものが伺えたように思います。また、広報の仕方について、Facebookの方のお話もありましたけども、チラシを配るだけではなく、校長会を一つ通すことで参加者が変わるといったような新しい視点で告知をすることで、何か変わってくるのではないかといったような意見がありました。二つの公民館に共

通しての話ですと、小中との連携。小さい時から公民館で親しむことで、大人になってからも公民館の利用が身近になるのではないかと。そのために連携を各方面としていく。さらに事業を増やすというよりもうまく繋いでいくといったような工夫が公民館にとっても、地域、学校にとってもより良い形になるのではといった提言がありました。以上を意見としたいと思います。それでは議題3(2)その他の豊栄地区公民館(旧館)工作室の移転について事務局説明をお願いします。

(事務局) (2) その他 豊栄地区公民館(旧館)工作室移転についてを説明

(日下議長) ありがとうございます。委員の皆さん工作室の移転に関して、何かご意見・ご質問はございませんでしょうか。

(神田委員) 工作室の移転について、本当にありがたいことに公民館の方々のおかげで、ちゃんと設けていただいて、このような形で移転することができる予定になっておまして、継続することがすごく大事だと思っているので、本当にありがとうございましたと言ってお礼を申し上げたいと思います。

(日下議長) 何か他にご質問などございますでしょうか。なければ、以上で本日の議題として予定されていたものは全て審議が終了いたしました。進行を事務局にお返しいたします。